

〈研究ノート〉

事態アスペクトと台湾海陸客家語の完了相について*

遠藤雅裕

1. 問題提起

台湾海陸客家語や台湾閩南語には、標準中国語の完了相標識“了”に相当する標識が存在しないが、完了をあらわすことは可能だ。たとえば、海陸客家語の例文(1)は「彼はライスヌードルを2杯食べた」という事態(event)をあらわす。また台湾閩南語の例文(2)は「私は昨晚手紙を一通書いたが、書き終わっていない」という意味である。これらに対応する標準中国語訳はいずれも完了相標識の“了”をともなっている¹⁾。

(1) ki⁵⁵ ʃit³² lioŋ³⁵ von³⁵ pan³⁵⁻³³ tʰiau⁵⁵

佢食兩碗板條。

他吃了兩碗板條。

(2) Goá cha-hng siá chit tiuⁿ phoe, tân-sī bô siá-oân. (曹逢甫1998)

我昨昏寫一張批，但是無寫完。

我昨天寫了一封信，可是沒寫完。

両者の共通点は専用の完了相標識が存在しないこと以外に、述語動詞の目的語“板條”(ライスヌードル)や“批”(手紙)に量的な限定詞(数量フレーズ)がある点である。つまり、述語動詞が指示する動作について量的な限定があるために、文全体で完了相と解釈されるといえる。

ところで、近年のアスペクト研究では、上述のような文レベルでのアスペクト(視点アスペクト)以外

*本研究は2020年度中央大学特定課題研究費(研究課題「台湾客家語のアスペクト体系の類型論的研究」)による研究成果である。ここに記して感謝の意としたい。

1) 客家語・閩南語・標準中国語の例文の表記には繁体字を使用し、また日本語訳をつける。海陸客家語と台湾閩南語については、音声表記(海陸客家語はIPA・台湾閩南語は教会ローマ字)および標準中国語訳もつけることとする。なお、海陸客家語の例文は、劉楨文化工作室編(2000)(略称『一日』)・詹益雲編(2008)(略称『故事』)等の文献からの引用以外は、すべて筆者の台湾における面接調査で収集したものである。文献からの引用の場合は、音声表記・漢字表記は引用元にしたがう。

に、動詞や動詞フレーズに内在するアスペクト（事態アスペクト）も分析対象となっている。事態アスペクト研究は後述するように、Vendler（1957）が提案した4類型、状態（state）・到達（achievement）・活動（activity）・達成（accomplishment）という枠組みがひとつの出発点となっており、現在もなおアスペクト研究における作業仮説としての価値を失っていない。本論もこの類型をひとつの基準として採用している。この類型が海陸客家語・台湾閩南語との関係で問題となるのは、有界で持続の局面をもつ達成型の事態アスペクトである。たとえば、劉綺紋（2006）は標準中国語の事態アスペクトのうち、「不変性・達成型事態」として“看一本書”（本を一冊読む）などの量的限定をともなった動詞フレーズを挙げている。このような例は、上述した海陸客家語や台湾閩南語では視点アスペクトとしての完了相として解釈される可能性がある。

本論では、上述した海陸客家語や台湾閩南語の完了相について、事態アスペクトや視点アスペクトとの兼ね合いでいかに処理するかについて初歩的な考察をこころみたい。

2. アスペクトをめぐる議論

アスペクトとは、動詞句がしめす事態の内的な時間展開のしかたについて、話者のとらえ方をあらわすカテゴリーである（Comrie 1976, 工藤1995, Olsen1997, 戴耀晶1997, 劉綺紋2006）。標準中国語をはじめとした漢諸語（Sinitic languages）においても、アスペクトは重要な研究対象であり、これを「體」「貌」「體貌」「態」「動態」などと称している。標準中国語については、完了相（動詞後置成分“了”，例文3）・持続相（動詞後置成分“著”，例文4）・経験相（動詞後置成分“過”，例文5）等が主要なアスペクトの下位範疇といえる。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| (3) 今天中午我吃了一碗麵。 | 今日のお昼は、私はどうどんを1杯たべた。 |
| (4) 他看著書呢。 | 彼は本を読んでいる。 |
| (5) 我去過一次中國。 | 私は中国に一度行ったことがある。 |

従来の主たる研究対象は、上述したようなアスペクトであったが、近年は、すくなくとも事態アスペクト（situation aspect, Smith1991/1997）と視点アスペクト（viewpoint aspect, Smith1991/1997）という、二層にわたるアスペクト性（aspectuality）についての考察が、漢諸語のアスペクト研究についても一般的になりつつある（Smith 1991/1997, Olsen1997, 劉綺紋2006, 陳前瑞2008, 梅廣2015, Soh 2017）。

事態アスペクトは、語彙アスペクト（lexical aspect, Olsen 1997）または状況アスペクトともいい、動詞や動詞句にそなわっている内的な時間構成のあり方をしめすカテゴリーである。上述したVendler（1957）の動詞の4類型がその原型となっている（図表1）²⁾。これらのうち、活動型と達成型の共通点はいずれも動的であり、過程性をもつことである。一方相違点は、活動型は必然的な終結点を持たないが、達成型はそのような終結点を持つことである。たとえば、runは任意の終結点（走り疲れて歩き出すなど）

2) 訳語は影山（1996：41）による。

遠藤：事態アスペクトと台湾海陸客家語の完了相について

が想定されるが、draw a circleは円を描きおわれば、それが必然的な終結点となる。状態型と到達型は過程性を持たないことが共通する一方、到達型は瞬間的に終結するが、状態型は開始と終結の限界をもたず、静的で一定期間持続するというちがいがあ

図表1 Vendler (1957) の事態アスペクト

類 型	例
activity (活動)	run, walk, swim, push a cart, drive a car
accomplishment (達成)	paint a picture, make a chair, push a cart to the supermarket, recover from illness, run a mile, draw a circle
state (状態)	know, believe, have, love
achievement (到達)	recognize, spot, find, lose, reach, die

この類型についてはさまざまな修正案があるものの、現在も作業仮説として採用する研究者も少なくない(影山1996, 陳前瑞2008, Croft 2012, 梅廣2015)。たとえば、陳前瑞(2008)と梅廣(2015)は標準中国語について、以下のような例を挙げている(図表2参照)。

図表2 中国語の事態アスペクト

類 型 ³⁾	陳前瑞 (2008)	梅廣 (2015)
activity (活動)	跑、畫、唱	玩、吃、寫、睡、看、聽、想念
accomplishment (完結/達成)	摧毀、建造	寫三封信
state (状態)	知道、是、有	高興
achievement (達成/瞬成)	死、贏	摔倒、打破、看見、破產、出現、死、病

なお、陳前瑞(2008)は、後述するSmith(1991/1997)や劉綺紋(2006)とはことなり、事態アスペクトの各類型を、各パラメータについて欠性対立によって記述している(図表3)。

図表3 欠性対立に基づく事態アスペクト(陳前瑞 2008: 268)

類 型	終結性 (telic)	動的 (dynamic)	持続性 (durative)	例
1. 状態 (state)			+	知道、是、有
2. 活動 (activity)		+	+	跑、畫、唱
3. 結束 (accomplishment)	+	+	+	摧毀、建造
4. 達成 (achievement)	+	+		死、贏

Smith(1991/1997)は標準中国語のほか、英語・フランス語・ロシア語・ナバホ語のアスペクト体系について類型論的なアプローチをとっている。事態アスペクトについては、Vendler(1957)に基づき状

3) 類型の()内はそれぞれの中国語訳である。両者がことなる場合は、スラッシュの前が陳前瑞(2008)の訳で、後が梅廣(2015)の訳である。

態性 (static / dynamic)・持続性 (durative)・終結性 (telic / atelic) という3つのパラメータによって、状態型 (state)・活動型 (activity)・達成型 (accomplishment)・一回型 (semelfactive)・到達型 (achievement) の5つに分類している (図表4参照)。すなわち、状態型は静的・持続的であり非有界的である。活動型は動的・持続的であり非有界的、達成型は動的・持続的・有界的 (自然な終結点を持つ)、一回型は動的・非持続的でありまた非有界的である。到達型は動的・非持続的・有界的である。

図表4 英語と中国語の事態アスペクト (Smith1991/1997)

類型	State	Durative	Telic	標準中国語の例
1. state (状態型)	+	+	-	存在、欠、屬於、像、知道、高興
2. activity (活動型)	-	+	-	走、找、欣賞、推、學
3. accomplishment (達成型)	-	+	+	蓋那個橋、出版那本書、吃飽、造一所房子
4. semelfactive (一回型)	-	-	-	踢、打門、咳嗽
5. achievement (到達型)	-	-	+	打破、回、找到、死、碰見

Smith (1991/1997) の事態アスペクトの分類は、その後の漢語語のアスペクト研究にも影響をあたえている。たとえば、劉綺紋 (2006) は動的・過程・終結性・変化性という4つのパラメータをもちい、標準中国語の事態アスペクトを静的事態・活動型事態・不変化性の達成型事態・変化性の達成型事態・不変化性の点的事態・変化性の点的事態の6つに分類している (図表5参照)。

図表5 中国語の事態アスペクト (劉綺紋 2006)

Situations	動的	過程	終結性	変化性	標準中国語の例
1. 静的事態	-	-	-	-	有、喜歡、怕、知道、高興、紅、是
2. 活動型事態	+	+	-	-	吃、走、學習、笑、睡覺、下雨、打電話
3. 不変化性の到達型事態	+	+	+	-	看一本書、吃一頓飯、洗一個澡
4. 変化性の到達型事態	+	+	+	+	穿、戴、煮飯、開門、寫字、蓋房子
5. 不変化性の点的事態	+	-	+	-	嚇一跳、看一眼、聽懂、看見、吃完
6. 変化性の点的事態	+	-	+	+	站、坐、回家、回國、到、死、結婚

一方、視点アスペクトは文法アスペクト (grammatical aspect, Olsen 1997) ともいい、Comrie (1976) のアスペクト体系に相当する。これは完了相 (perfective) と非完了相 (imperfective) に大別されるが、このちがいは話者の視点にある。完了は事態を外側から観察したものであり、事態そのものがひとつの完結した有界 (telic) なものとして認識される。一方、非完了は事態を内側から観察したものであり、限界 (endpoint) を確認することができない。つまり、事態は完結したのではなく非完結的な無界 (atelic) として認識される。

3. 漢諸語のアスペクト研究

漢諸語のアスペクトについての研究は、視点アスペクトの標識についてのものが主流といえる⁴⁾。その多くは個別方言のアスペクト専用標識の記述や文法化についての考察、または漢諸語全体を対象とした類型論的研究であるといえるだろう。図表6は、このような漢諸語についての言語横断的研究成果等(Chappell 1992, Yue-Hashimoto 1993, 黄伯榮1996, 張雙慶編1996, 江敏華2007)にみえる視点アスペクトの下位カテゴリーを一覧表にしたものである。

これらの内、Chappell (1992) は北京官話・広州粵語・廈門閩南語のアスペクト標識についての類型論的研究である。また、張雙慶編 (1996) は粵語・客家語・閩語等15の個別方言のアスペクト体系についての記述を取録したもので、視点アスペクトについては14種が確認できる。Yue-Hashimoto (1993) と黄伯榮 (1996) は漢諸語全体を対象にした便覧的な性格をあわせもつ著作で、視点アスペクトをそれぞれ16種と17種に分類している。江敏華 (2007) は、Yue-Hashimoto (1993) の枠組みを使用して台湾東勢客家語のアスペクト体系を記述したもので、Yue-Hashimoto (1993) の16種のほか、既然相(図表6-2, 已然)・将然相(図表6-25, 將然)をくわえ計18種となっている。これら先行研究の重複を整理すると、少なくとも漢諸語には25種あまりのアスペクトの下位カテゴリーが認められる。アスペクトをになう主要な形式は、“了”のような専用のアスペクト標識から、“完”や“好”のような結果補語⁵⁾、短時相をになう“一下”のような動量詞由来の標識や動詞の重ね型、さらには“曾經”などの副詞や、事態の終結点をしめすような数量表現など、実に多岐にわたっている。迂言的な形式をふくめれば、さらなる細分化も可能であろう。

また、これら五つの先行研究に共通しているカテゴリーは完了(perfective、完整)・経験(experiential、經歷)・起動(inchoative、起始)・進行(progressive、進行)・持続(continuous、持續)の5つである。また、既然相(perfect / anterior)をみとめるものもすくなくない。

なお、これらのカテゴリーの成員は必ずしも一致しているとは限らない。たとえば、動詞前置成分“有”について、Chappell (1992) はperfect / anterior (図表6-2 既然相) とするのに対し、Yue-Hashimoto (1993) はaffirmative (図表6-3 確定相) としている⁶⁾。

4) 片岡 (2010) は粵語の視点アスペクトのひとつである進行・持続相についてのものであるが、事態アスペクトの体系をふまえた研究成果である。

5) 述語動詞が指示する事態の一段階をあらわすために、「動相補語 (phase complement)」ともいわれる。後述する陳前瑞 (2008) が提案した漢語 (標準中国語・北京官話) のアスペクト四層体系の段階アスペクトに相当する。

6) 南方漢語にひろくみられる動詞前置の“有”については、アスペクト標識説 (たとえば Chappell 1992, Yue-Hashimoto 1993, 湯廷池等1997, 江敏華2007) のほか、モダリティ標識説 (たとえば Cheng 1985, 曹逢甫 1998, 遠藤 2014) ならびに過去テンス標識説 (たとえば Hashimoto 1973) という 3 つの学説がある。

図表6 漢諸語のアスペクト分類

		Chappell (1992)	Yue-Hashimoto (1993)	江敏華 (2007)	黄伯榮編 (1996)	張雙慶編 (1996)
1	完了	perfective	perfective	完成	完成	完成
2	既然	perfect /anterior	-	已然	-	已然
3	確定	-	affirmative	確定	-	-
4	進行	progressive	progressive	進行	進行	進行
5	持続	continuous	durative	持續	(持續)	持續
6	経験	experiential ⁷⁾	experiential	經歷	經歷	經歷
7	起動	inchoative	inchoative	起始	起始	起始
8	即時	-	instantive	立即	-	-
9	部分	-	partitive	部分	-	-
10	習慣	havitual	havitual	習慣	-	-
11	連続	-	incessant	連續	-	連續
12	補償	-	compensative	補償	再次	重行
13	変化	-	change	變化	-	轉變
14	短時	delimitative	-	-	短時	短時
15	試行	tentative	tentative	嘗試	嘗試	嘗試
16	継続	-	continuative	繼續	繼行	繼續
17	回復	-	resumptive	重始	復原	-
18	完結	-	completive	完全	結束	-
19	反復	-	-	-	反復	反復
20	可能	-	-	-	可能	-
21	結果	-	-	-	結果	-
22	存在	-	-	-	存在	存在
23	継起	-	-	-	接連	-
24	実現	-	-	-	實現	-
25	将然	-	-	將然	將行	-
26	先行	-	-	-	先行	-

図表6のいくつかの下位カテゴリーを、先行研究にしたがって確認しよう（数字は図表6の各項目に相当する。項目2は主として江敏華（2007）に、項目3, 8, 9, 11～13, 16, 17はYue-Hashimoto（1993）に、項目19～22は黄伯榮（1996）に基づく）。

既然相（2）：官話の文末詞“了”がこれに相当する。江敏華（2007）によれば、現在時（発話時）にすでに事実になっている動作や状態をしめす。東勢客家語では文末詞の“le33 / lio53”がこれをなう。

確定相（3）：過去に発生した事態あるいは発話時に存在している事態が確定であることをさす。たとえば、南方漢語の動詞前置成分“有”がこの機能をなう。

即時相（8）：複文の前節にあらわれ、前節の動作行為によって後節が指示する動作がひきおこされる

7) 正確にはexperiential perfect（経験的既然相）である。

ことをさす。北京官話の“一…就～”に相当する。

部分相 (9)：“三個梨我吃了兩個。”(ナシ3個のうち2個食べた)のように、全体から部分をとりだす事態をさす。粵語の動詞後置成分“kam³⁵(減)”がこれに相当する。

連続相 (11)：動作がとだえることなく継続することをさす。湖北希水方言の“ko⁴⁴+V+ko⁴⁴+V”の“ko⁴⁴”がこの標識である。

補償相 (12)：損失や失敗などを回復するために前回とおなじ動作をくりかえすことをさす。動詞後置成分“過”がこの標識である。南方漢語によくみられる。

変化相 (13)：複文の前節に標識があらわれ、前節がしめす動作行為の最中に後節がしめす動作が突然おきることをあらわす。粵語広州方言の例“唱唱下³⁵忽然間就喉沙”(歌っている最中に喉がかれた)の“VV下³⁵”がこれに相当する。

継続相 (16)：官話の“下去”がこれにあたり、動作がおわらずにつづいてゆくことをさす。

回復相 (17)：中断した状態や動作の回復をさす。たとえば粵語の動詞後置成分“翻”がそれである。

反復相 (19)：“説來說去”(あれこれ話す)のように、動作を何度もくりかえすことをさす。

可能相 (20)：“V+得”という形式で、動詞(V)がしめす動作行為が可能であることをあらわす。

結果相 (21)：動作行為の結果しかるべき目的を達したこと、あるいはしかるべき結果をうみだしたことをしめす。閩南語の“着tio?3”などがその機能をなう。

存在相 (22)：動作行為がある場所に存在していることをさす。たとえば呉語の動詞後置成分“la? hE”などである。

4. 標準中国語の四階層アスペクト体系

第3章の図表6では、視点アスペクトの下位カテゴリーを一元的にあつかったが、一方で、アスペクトを「體」と「貌」のふたつに分類する場合もある。たとえば、張雙慶編(1996)の李如龍序では、「體」とは動作行為の客観的な進行状況に対する観察および感覚とするのに対し、「貌」については動作主体の一定のかんがえや気持ちをあらわしているものとする。前者には標準中国語の“了”“着”“過”などが、後者には短時相をあらわす動詞の重ね型などが属する。李序ではさらに、「體」がいわゆるアスペクト(=視点アスペクト)に相当するものであるとのべられている。鄭定歐(2001)はさらに明確に、「體」とは動作の時間的経過にそった線状的展開、すなわち完了しているか否かをあらわすものである一方、「貌」とは「體」のような過程ではなく、内在的時間の作用の結果、すなわちいかに実現しているのかをあらわすものであるとのべている。その上で、粵語広州方言のアスペクト関連の形式の内、動詞後置成分“咗”と“落”は「體」と「貌」の双方に属するが、おなじく動詞後置成分“過”“開”および重ね型形式の「動1+兩+動1」は「貌」にのみ属すると指摘している。

これらの研究からわかることは、視点アスペクトの下位カテゴリーは一元的に処理できるものではなく、段階性が存在していること、もしくは少なくともグルーピングが可能なことである。しかしながら、これらの論考では定義が必ずしも明確にされておらず、曖昧であることは否めない。また標準中国語以外の漢諸語については、事態アスペクトについて検討していない点も見うけられる。

このような問題の解決策のひとつは、陳前瑞（2008）が提案した漢語（標準中国語・北京官話）のAspect四階層体系の援用であろう（図表7参照）。この体系では、上述した事態Aspect（情状體）のほかに、Aspect体系を中心的視点Aspect（核心視點體）・周辺の視点Aspect（邊緣視點體）・段階Aspect（階段體）の4段階にわけている。視点Aspectは中心的視点Aspectと周辺の視点Aspectにわけられるが、その基準は標識の文法化の程度で、前者の方が後者よりも文法化の程度が高い。また、それぞれが内部視点と外部視点にわかれる。段階Aspectは事態Aspectと視点Aspectの中間に位置する。これは事態の具体的な段階の表現であり、基本的段階Aspect（基本階段體）と量的段階Aspect（涉量階段體）にわけられる。前者には方向成分の“起來”（起動相）および“下來”“下去”（継続相）があり、後者には補語成分の“完”“好”“過”（完結相）および“著（zháo）”“到”“見”（結果相）がある。後者の量的段階Aspectには、“説説”のような動詞の重ね型（短時相）や“説説笑笑”のような重ね型の複合形式（反復相）がある。このふたつは特定の形態素ではなく構文（construction）が意味をになうという点で、ほかの標識とはことなっている。この体系では、上述した「體」が視点Aspectに、「貌」が段階Aspectにほぼ相当するであろう。

図表7 標準中国語の四階層Aspect体系（陳前瑞 2008：271）

中心的視点 Aspect	非完了相（内部視点Aspect）			完了相（外部視点Aspect）		
	動詞後置成分“著”			動詞後置成分“了”		
周辺の視点 Aspect	進行相（内部視点Aspect）			経験相・既然相（外部視点Aspect）		
	動詞前置成分“正、正在、在” 文末詞“呢”等			動詞後置成分“過、來著” 文末詞“了”等		
段階 Aspect	起動相	継続相	完結相	結果相	短時相	反復相
	起來	下來、下去	完、好、過	著（zháo）、 到、見	重ね型 （“説説”）	重ね型の複合 形式 （“説説笑笑”）
事態Aspect	状態		活動	達成		到達
	知道、是		跑、玩、唱歌	創造、建造		死、贏

5. 海陸客家語の完了相一専用標識の不在一

海陸客家語では、事態の終結をあらわす場合、完結相標識“掉^{t^het⁵}”（動詞後置）および既然相標識“了^{le⁵³}”（文末）を使用することができる。経験については経験相標識“過^{ko²¹}”（動詞後置）および“識^{it⁵}”（動詞前置）をもちいる。一方、上述したように、完了相については専用標識をもちいず、それをあらわすことができる。この条件はなお不明確な部分もあるが、少なくとも量的限定や到達点（goal）などといった顕在的な限界がそれをになっているといえる（遠藤2010）。これによって事態は完結した有界なものとなる⁸⁾。Yue-Hashimoto（1993：70）は、Aspectがあらわれる文は、習慣相をのぞき、量化や時間的限

8) 限定詞が数量詞でなく指示詞である場合は、完了はあらわさない。例えば、「佢食該（那）碗條條。」（彼はあのライスヌードルを食べる／食べた）は、完了かいなかについては不定である。

定により定 (specific) であることを指摘している。この点は重要で、文のアスペクト性をささえるものは、単に、たとえば官話の“了”のような専用標識のみではなく、戴耀晶 (1997) もまた指摘するように、文全体なのである。よって、専用標識が存在しなくてもなんらかの限界が存在すれば文全体では完了相をあらわすという解釈も可能である。

以下、海陸客家語の具体例を確認することにする。例文 (6) ~ (13) はいずれも量的限定をともなっているものである。このような事態は分割できず、限界はひとつのみである (劉綺紋2006: 50)。以下の例文の“兩碗” (例文6)・“三年” (例文7)・“一大圈” (例文8)・“一張” (例文9)・“一下” (例文10)・“一隻” (例文12) がそれにあたる。例文 (11) は数詞“一”が省略され量詞“間”のみとなっているが、量的規定があると考えられる⁹⁾。なお、事態アスペクトについては例文 (6) ~ (8) が活動型、例文 (9) ~ (12) が到達型である (後述)。

(6) ki⁵⁵ ʃit³² liŋ³⁵ von³⁵ pan³⁵⁻³³ t^hiau⁵⁵

佢食兩碗飯條。

他吃了兩碗飯條。(彼はライスヌードルを2杯食べた。)

(7) zin⁵³ ŋi⁵³ hok³² sam⁵³ ŋien⁵⁵

英語學三年。

英語學了三年。(英語を3年学んだ。)¹⁰⁾

(8) ...giug⁵ guai²⁴ a³³, du¹¹ lia⁵⁵ fu⁵³ tien⁵⁵ giug⁵ do¹¹ gai⁵⁵ fu⁵³ tien⁵⁵, did⁵ rhid⁵ tai³³ kien⁵³, gied⁵ go²⁴
han⁵⁵ he¹¹ mo⁵⁵ zug⁵ do¹¹

…趟甥啊，佇這坵田趟到該坵田，繞一大圈，結果還係無捉到。

…追青蛙從這畝田追到那畝田，繞了一大圈，結果還是沒追到。(蛙を追ってこちらの田んぼからあちらの田んぼまで、ぐるりと大きくひと回りしても、やっぱり捕まえられなかった。)

(『一日』 p.8)

(9) ŋai⁵⁵ hip⁵⁻³² zit⁵⁻³² tʃoŋ⁵³ sioŋ²¹

我翕一張相。

我照了一張相。(私は写真を1枚撮った。)

(10) ki⁵⁵ t^heu⁵⁵ sen⁵³ t^het⁵⁻³² ŋai⁵⁵ zit⁵⁻³² ha³³, m⁵⁵ ti⁵³ tso²¹ mak³² kai²¹

佢頭先踢我一下，唔知做□個。

他剛才踢了我一腳，不知爲什麼。(彼は先ほど私をひと蹴りしたが、わけがわからない。)

9) 動詞の重ね型は“ŋai⁵⁵ sioŋ³⁵⁻³³ sioŋ³⁵, han⁵⁵ he²¹ ket⁵⁻³² t^hin³³ m⁵⁵ hi²¹我想想，還係決定唔去。”(我想了想，還是決定不去。／私は考えてみたが、やはり行かないことに決めた。)のように、無標で完了という解釈が可能である。しかし、筆者の初歩的な調査では、海陸客家語の歴史資料ではこのような重ね型はみつかっていない。標準中国語の干渉であることも考えられるため、今回は考察対象からはずすことにした。

10) 調査協力者によれば、この文は質問に対するこたえとのことである。

- (11) a³³ tad² er⁵⁵, tang¹¹ gong²⁴ ngi⁵⁵ mai⁵³ gien⁵³ dong⁵³ ziang⁵³ e¹¹ vug⁵, zhin⁵³ shid² e¹¹ rha²⁴ ga²⁴ e¹¹?
 阿達仔，聽講汝買間當靚个屋，真實个仰假个？
 阿達，聽說你買了間很漂亮的房子，真的還假的？（タツちゃん，きれいな家を買ったって、本当なの？）『一日』 p. 25
- (12) ηai⁵⁵ ta³⁵⁻³³ lan³³ zit⁵⁻³² tʃak⁵ von³⁵
 我打爛一隻碗。
 我打破了一個碗。（私は茶碗をひとつこわした。）

一方，例文 (13) (14) は到達点をもつものである。例文 (13) は標準中国語の様態補語を含む文に相当するが，海陸客家語では到達点を導く“到”によって，ある動作行為（“緊張”（あせる））によってある結果（“叫起來”（泣きだす））にいたったという文となっている。つまり，“叫起來”が到達点なのである。例文 (14) も同様で，“我愁”が到達点である。

- (13) ki⁵⁵ kin³⁵⁻³³ tʃoŋ⁵³ to²¹ kiau²¹ hi³⁵ loi⁵⁵
 佢緊張到叫起來。
 他急得哭了起來。（彼はあせて泣きだした。）
- (14) lia⁵⁵ k^hen³³ si³³ t^hin⁵⁵ si³⁵⁻³³ to²¹ ηai⁵⁵ seu⁵⁵
 這件事情使到我愁。
 這件事情使我傷透了腦筋。（このできごとは私を悩ませた。）

完了相標識があると継起する個別の事態を叙述できる (Bybee et al.1994: 54)。上述した専用標識のない文でも，例文 (15) (16) のように，連続した個別の事態を叙述できる。例文 (15) では完結相標識“好”や量的限定をあらわす“一下”“一隻”が，また，例文 (16) では“幾聲”が限界をしめしており，完了相的解釈をになっている。

- (15) ηai⁵⁵ fit³² za³³ fit³² ho³⁵, lau⁵³ zit⁵⁻³² ha³³, heu³³ loi⁵⁵ tʃon³⁵ loi⁵⁵ foi³³ zit⁵⁻³² ha³³, pot⁵⁻³² zit³² tʃak⁵ muŋ³³
 我食夜食好，□一下，後來轉來睡一下，發一隻夢。
 我吃了晚飯，踹躓了一會兒，後來回來就睡下了，做了個夢。（私は夕食を食べると，しばらくブラブラし，それから帰ってきて寝て，夢を見た。）
- (16) gong² a² sot, gi tai² siäu gi² shàng, tsiöŋŋ gin bùi sha² rong², biäu nén tzéu.
 講啊煞¹¹⁾，佢大笑幾聲，像人飛射樣，飄寧走。
 講完了，他就大笑了幾聲，就像飛一樣地走了。（いいおわるやいなや，彼は大笑いして，飛

11) “講啊煞”は「V+“啊”+結果補語」という構造であり，複文の前節として用いられる。この構造は即時相（図表6第8項）をになっている。

ぶように去ってしまった.) (『故事』 p.13)

このような限界をになう成分がない場合は、例文 (17) のように“後”のような時間の前後関係をしめす成分が必要となる。

(17) ŋai⁵⁵ sioŋ³⁵⁻³³ fit³² ʒa³³ heu³³, hi²¹ k^hon²¹ t^hien³³ ʒaŋ³⁵ tʃaŋ²¹ tʃon³⁵

我想食夜後，去看電影正轉。

我想吃了晚飯，看了電影再回去。(私は夕食をとって映画をみてからかえりたい。)

工藤 (1995) は、日本語の完了相標識 (する・した) が、運動が継起することをしめすタクシスの機能をもあわせもつことを指摘している。標準中国語の場合も、動詞後置成分の“了”が、例文 (15) ~ (17) にしめすように、同様の機能をになっている。専用標識が存在せず、文全体の限界性で完了相をあらわす海陸客家語の場合も、個別のフレーズの限界性で、運動の継起性をしめすことが可能といえる。

限界が示されていない文は、完了か未完了かが確定していない (例文18)。このような場合は文末に已然相標識“了⁵³”をおくことで完了をあらわすことが可能である (例文19)¹²⁾。

(18) 我食飯。

ŋai⁵⁵ fit³² p^hon³³

我吃飯／我吃了飯。(私は食事をする／私は食事をした。)

(19) 我食飯了。

このように、量的限定は完了相的解釈の条件のひとつであるが、文脈に優先するものではないようだ。たとえば、例文 (20) は命令文での量的限定だがこの場合は完了とは解釈されない。

(20) ŋi⁵⁵ t^hon⁵⁵ ʒit⁵⁻³² ha³³ loi⁵⁵ k^hon²¹, lia⁵⁵ he²¹ mak³² kai²¹?

你□一下來看，這係□個？

你猜一下看，這是甚麼？(これがなにか当ててみてごらん。)

6. 海陸客家語の完了相と四階層アスペクト体系における位置づけ

本章では第5章で検討したことに基づいて、海陸客家語の完了相を中心としたアスペクト体系について、陳前瑞 (2008) の四階層アスペクト体系 (「四層体系」と略称) における妥当性かんがえてみたい。四層体系は上述したように、視点アスペクトから事態アスペクトまでを包括する体系である。視点アス

12) 標準中国語の文末詞“了”は実現・未実現両方の事態をあらわすことが可能であるが、海陸客家語の“了”はもっぱら実現している事態にのみ使用できる。未実現の場合は“ho³⁵⁻³³ fit³² p^hon³³ le⁵³好食飯了。”(まもなく食事になると“好”(～できる)あるいは未然モダリティ標識“會”をもちいなければならない。

ベクトは標識の文法化の程度により中心的視点アスペクトと周辺の視点アスペクトにわけられ、さらにそれぞれは内部視点（非完了）と外部視点（完了）にわけられる。

遠藤（2019）ではSchaank（1897）が記録したインドネシア陸豊客家語のアスペクト体系を、四層体系をもちいて整理したが、その際海陸客家語についても整理をこころみている（図表8）。なお、事態アスペクトについては、Vendler（1957）と陳前瑞（2008）の4分類に基づき、一覧表にまとめた（図表9）。

図表8 海陸客家語のアスペクト体系

中心的視点アスペクト	非完了相（内部視点アスペクト）				完了相（外部視点アスペクト）		
	-nen ³⁵ 等 ¹³⁾				専用標識なし		
周辺の視点アスペクト	進行相（内部視点アスペクト）				既然相（外部視点アスペクト）		
	t ^h o ⁵³ {lia ⁵⁵ /kai ⁵⁵ }在{這/該}				-le ⁵³ 了#/-ko ²¹ 過、fit ⁵ 識-		
段階アスペクト	起動相	継続相	重行體	完結相 ¹⁴⁾	結果相	短時相	反復相
	-hi ³⁵ loi ⁵⁵ 起來	-ha ⁵³ hi ²¹ 下去	-ko ²¹ 過	-t ^h et ⁵ 掉 -ho ³⁵ 好 -ko ²¹ 過	-to ³⁵ 倒	V(V)(a ³³ lǝ ³³) V一下(a ³³ lǝ ³³)	V a ³³ V V nen ³⁵ V nen ³⁵ V ₁ V ₂ V ₁ V ₂ VV a ³³ lǝ ³³

図表9 海陸客家語の事態アスペクト

	類型	例
1	状態	知、係(是)、有、感覺(覺得)、紅、大、得人惱(討厭)
2	活動	食、食煙(抽煙)、行(走)、唱、讀書、開車
3	達成	著(穿)、電毛(燙髮)、起屋(蓋房子)、過橋
4	到達	到、回國、死、企(站)、食掉(吃完)、聽倒(聽到)

この四層体系について問題となるのは、完了相の位置づけである。遠藤（2019）では、中心的視点アスペクトの外部視点の箇所にとまず「専用標識なし（無標識）」と表示して処理をした（図表8）。主たる問題点はつぎの2点である。

ひとつ目は、第5章で確認したように、完了相をになう形式は、段階アスペクトの短時相や反復相のように構文として整理できるほどまとまったものではないことだ。また、量的限定や終結点の存在は、必ずしも常に完了相をあらわすわけではない。

ふたつ目は、量的限定をともなった形式は事態アスペクトのレベルで処理をすることがむずかしいことである。このような形式は事態アスペクトの達成型あるいは到達型として処理される傾向がある。たとえば、accomplishment（達成）について、Smith（1991/1997）は“造一所房子”（家を1軒つくる）（図表4）

13) 非完了相標識“nen³⁵”の本字は不明であるために、ひとまず“等”をもちいる。

14) このほか“完van⁵⁵”“煞sot⁵”等の標識があるが、これらの使用頻度は高くないという印象があるために、ここでは割愛した。

を、梅廣（2015）は“寫三封信”（手紙を3通書く）（図表2）をあげ、また劉綺紋（2006）の「不変性への到達型事態」では“看一本書”（本を1冊読む）などが例としてあげられている（図表5）。しかし海陸客家語では、これらは事態アスペクトというよりも視点アスペクトのレベルで解釈されるものである。それゆえ少なくとも海陸客家語の四階層アスペクト体系の事態アスペクトには、量的限定をともなったフレーズをとりこむことはできない。よって、この点からも、陳前瑞（2008：267）が事態アスペクトについては述語動詞の意味分類とし、その前後にあらわれる成分については事態アスペクトにふくめないとする処理方法は妥当であるといえる。

四層体系の対象は、専用標識のように自由形式であれ拘束形式であれ、基本的に形態素として独立しているか、あるいは動詞の重ね型のように構文として処理できるレベルの形式である。それゆえ、たとえば視点アスペクトの下位カテゴリーでは文法化の程度を分類の根拠としている。海陸客家語あるいは台湾閩南語の完了相のように、構文としてあつかうことがむずかしい場合、このモデル内では適切な処理ができない。ひとつの処理方法として、アスペクトをになう形式を特定の形態素あるいは構文のみにかぎるといえる。この場合、海陸客家語には中心的視点アスペクトである完了相が存在せず、周辺の視点アスペクトに属する既然相標識“了”が視点アスペクトとして唯一完了をになう形式となる。

上古漢語の基本的アスペクトは“畢”“已”のようなアスペクト動詞（動貌動詞）や事態アスペクト（事件類型）によってなわれていた（梅廣2015：438）。海陸客家語や台湾閩南語の完了相の特徴は、上古漢語の特徴をのこしているとかんがえられる。それゆえ、現代の標準中国語を基準とした四層体系では処理がむずかしい面があることはいなめない。

今後は、漢語史における完了相の発展ともに、海陸客家語のアスペクト体系および四層体系における完了相の位置づけについて、さらなる調査と考察をおこないたいと考える。

参考文献

〔日本語・中国語〕

- 曹逢甫. 1998. 〈台湾閩南語中與時貌有關的語詞“有”、“Ø”和“啊”試析〉. 《清華學報》28-3：299-334.
- 陳前瑞. 2008. 《漢語體貌研究的類型學視野》. 北京：商務印書館.
- 戴耀晶. 1997. 《現代漢語時體系統研究》. 杭州：浙江教育出版社.
- 遠藤雅裕. 2010. 〈台湾海陸客語的完整體〉. 臺灣語文學會《臺灣語文研究》5-1：37-52.
- 遠藤雅裕. 2014. 「南方漢語のモダリティ標識「有」について—台湾海陸客家語を中心に—」. 早稲田大学中国文学会『中国文学研究』40：89-113.
- 遠藤雅裕. 2019. 《Het Loeh-foeng-dialect（陸豊方言）所記録的印尼陸豊客語語法特點》. 『中央大学論集』40：1-31.
- 黄伯榮主編. 1996. 《漢語方言語法類編》. 青島：青島出版社.
- 江敏華. 2007. 《客語體貌系統研究》（行政院客家委員會獎助客家學術研究計畫成果報告）.
- 影山太郎. 1996. 『動詞意味論—言語と認知の接点』. 東京：くろしお出版.
- 片岡新. 2010. 《粵語體貌詞尾「緊」的演變和發展》（香港中文大學中國語言及文學課程博士論文）.
- 劉綺紋. 2006. 『中國語のアスペクトとモダリティ』. 大阪：大阪大学出版会.

- 劉楨文化工作室編. 2000. 《一日一句客家話：客家老人言》. 臺北：臺北市政府民政局
- 梅廣. 2015. 《上古漢語語法綱要》. 台北：三民書局.
- 湯廷池·湯志真·邱明麗. 1997. 〈閩南語的「動貌詞」與「動相詞」〉. 『橋本萬太郎記念中國語學論集』 283-302. 東京：內山書店.
- 張雙慶主編. 1996. 《中國東南部方言比較研究叢書（2）：動詞的體》. 香港：香港中文大學.
- 鄭定歐. 2001. 〈說“貌”——以廣州話為例〉. 《方言》 2001-1：53-59.
- 詹益雲編. 2008. 《海陸客語短篇故事第三集》. 新竹：新竹縣海陸客家語文協會.
- [英語]
- Bybee, Joan, Revere Perkins & William Pagliuca. 1994. *The Evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Chappell, Hilary. 1992. Towards a typology of aspect in Sinitic languages. *Chinese Languages and Linguistics* 1: 67-106.
- Cheng, Robert L. 1985. A Comparison of Taiwanese, Taiwan Mandarin, and Peking Mandarin. *Language*. 61-2: 352-377.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Croft, William. 2012. *Verbs: Aspect and Causal Structure*. Oxford: Oxford University Press.
- Hashimoto, Manrato J. 1973 *The Hakka Dialect: A Linguistic Study of Its Phonology Syntax and Lexicon*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Olsen, Mari Broman. 1997. *A semantic and pragmatic model of lexical and grammatical aspect*. New York: Garland Publishing Inc..
- Smith, Carlota S. 1997. *The Parameter of Aspect (Second Edition)*. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.
- Soh, Hooi Ling. 2017. Aspect, Modern. In Rint Sybesma (eds.) *Encyclopedia of Chinese Language and Linguistics*. Vol. I. 193-201.
- Vendler, Zeno. 1957. Verbs and Times. *The Philosophical Review*. 66-2: 143-160.
- Yue-Hashimoto, Anne. 1993. *Comparative Chinese Dialectal Grammar*. Paris: Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, Centre de Recherches Linguistiques sur l'Asie Orientale.

(法学部教授 言語学)